
人權擁護法

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人権擁護法

【著者名】

柊鏡

Z0398G

【あらすじ】

二十一世紀初頭、コーラシアの東の端っこで珍妙な法案が可決された。

二十一世紀初頭、コーラシアの東の端っこで珍妙な法案が可決された。

「きわまあー！」

「きなり警官が怒鳴り込んできたので、私はびっくりした。何でしょう？」

「きわまあ、その抱き枕、裸ではないかッ！」

「すいません！」

「ちゃんと、服を着せぬかッ！」

私はいそいそとベッドの上の『女装少年ラティカルなのは』の抱き枕に服を着せた。

警官はうんうん唸りながら言った。「よしよし、今回は見逃してやろうじゃないか」

言いつつ彼は手をちょこんと差し出してくる。

「はいはい。解ってますよ」

私は彼の掌に野口を一枚乗せた。よつするに、賄賂である。警官はぞんざいに野口を財布にしまつと帰つた。

ふうと嘆息する。

当初、人権擁護法はマンガやアニメやゲームのバイオレンス表現の規制にあつた。

青少年の人権保護と、ペドフィル嗜好の駆逐が目的であつた。しかし、制定から半世紀。バイナリズム。

少子化はやまず、二次元教の人口は増えていった。

私はその日、裁判の公聴に行つた。

原告が言つた。「この表現はなのばの権利を侵害しています」

証拠としてスクリーンに映し出されたシーンには、『女装少年ラディカルなのは』の主人公、なのはが虐められているところだった。あまりのシーンのバイオレンスさに陪審員たちは、一様に渋い顔になつた。

午後の公判も聞いた。

原告は肉体の死後、デジタルデータとして自分の脳内構造をコンピューターに移植した男だつた。

彼は自身に人権がないことを憂^{うれ}いていた。

彼は接続されたスピーカーから声を出した。「おかしいではないですか。私もデジタルな存在に違いないではないですか？ 如何して私に人権がないのでしょうか？」

裁判官は無碍^{むがい}にも告げた。「きみは元々、人間だからなあ……。萌えキャラにでもなればいいんじゃないの？」

一〇〇〇年。日本国の人口は九千四百万人である。

一方、人権保有者は世界人口よりも多い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0398g/>

人権擁護法

2010年12月30日07時28分発行